

経済指標ウォッチャー

# 米国実質GDP成長率は2四半期連続でプラス

## 好調な生産活動を背景に設備投資は増加傾向

### GDP（国内総生産）とは？

Gross Domestic Productの略で、国内において一定期間内に新たに生産されたモノやサービスなどの合計金額。その国の経済力の目安に用いられる。

前年同期や前期と比べ、どのくらい増加（減少）したのかを見ることで、国内の経済成長を推定することが可能となる。GDPの増減率を%で表したものを『GDP成長率』と呼ぶ。

### 実質GDP成長率は2四半期連続でプラス

米国商務省が1月28日に発表した、2020年10-12月期の実質GDP（国内総生産）成長率（季節調整済み、速報値）は、前期比年率+4.0%となりました。事前予想の同+4.2%を下回りましたが、2四半期連続でプラスです（図表1）。製造業を中心とした生産活動が好調であり、民間設備投資の増加が実質GDP成長率を押し上げたものとみられます。

2020年を通じた実質GDP成長率（季節調整済み、速報値）は前年比-3.5%となりました。マイナス成長となるのは、リーマンショック後の2009年以来、11年ぶりのことです。

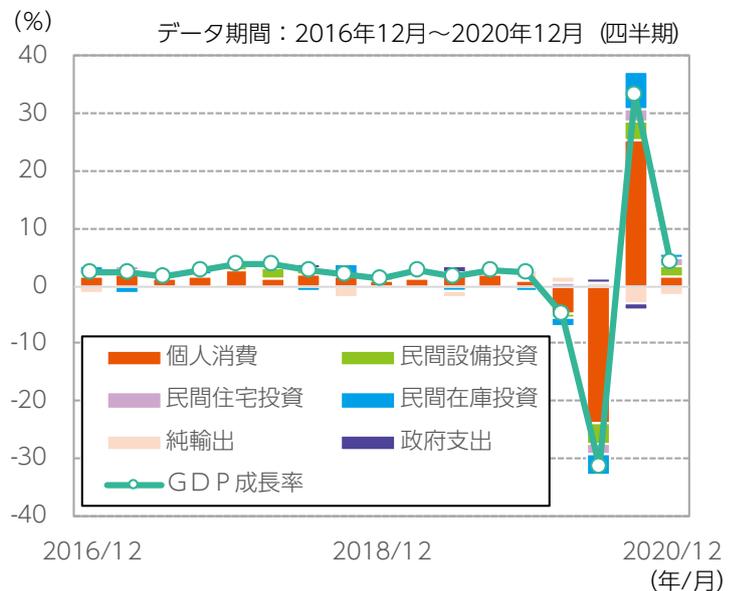
### 生産活動の回復を背景に設備投資は増加傾向

好調な生産活動を背景に、企業の設備投資は増加傾向です。設備投資の先行指標とされる航空機を除く非国防資本財の新規受注額を集計したコア資本財受注額は2020年5月以降、8カ月連続で増加しています（図表2）。ISM（全米供給管理協会）製造業景況感指数の新規受注も高水準であることから、今後も企業の設備投資は増えるものとみられます。

### 追加経済対策で消費の下支えが期待される

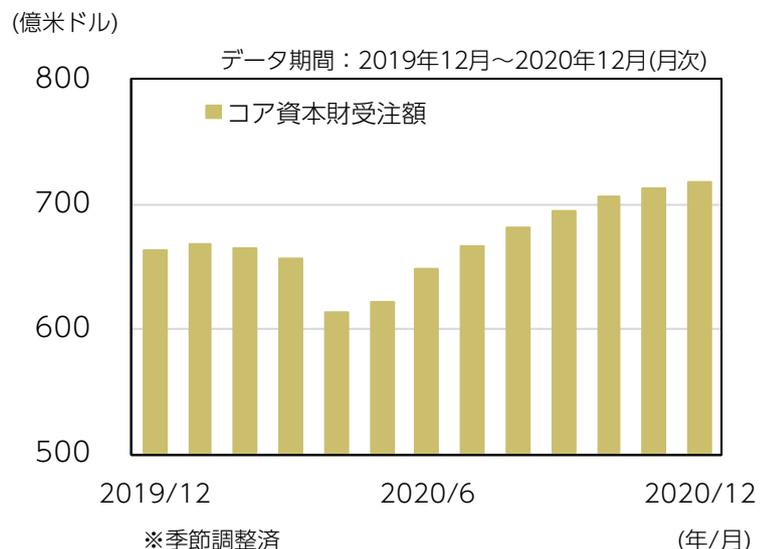
足元では感染拡大による外出制限等の規制から小売売上高が10月以降、3カ月連続で減少しており、GDPの約7割を占めるとされる個人消費の回復が懸念されます。しかし、2020年末に成立した追加経済対策に盛り込まれた個人向けの支援策やバイデン新政権の発表した現金給付の上乗せや失業給付拡充などが個人消費を今後下支えすることが見込まれ、2021年1-3月期以降の実質GDP成長率の押し上げが期待されます。

図表1：実質GDP成長率は2四半期連続でプラス



※米国実質GDP成長率（前期比年率）と項目別寄与度の推移

図表2：コア資本財受注額は8カ月連続で増加



※季節調整済

## 【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

## &lt;設定・運用&gt;



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

コールセンター 0120-762-506  
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）  
ホームページ <https://www.nam.co.jp/>